

- 問1 12世紀後半、武士として初めて太政大臣となり、中国の王朝である宋との貿易による利益を求めて、現在の神戸市にあたる兵庫の港（大輪田泊）を整備した人物は誰ですか。（2023年 山口公立入試 類似）
1. 平清盛
 2. 足利義満
 3. 菅原道真
 4. 小野妹子
- 問2 歴史の学習において、平安時代に活躍した人物の事績をまとめた資料を作成したところ、一人の僧侶について「唐から帰国後に真言宗を開き、高野山を拠点として日本独自の密教を発展させた」という記述になりました。この人物に該当するのは誰ですか。（2023年 徳島公立入試 類似）
1. 空海
 2. 最澄
 3. 栄西
 4. 道元
- 問3 平安時代中期の文化において、藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂に代表されるような、日本独特の風土や感情に合わせた文化の総称と、その背景にある信仰の組み合わせとして正しいものを選んでください。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. 国風文化 — 浄土信仰
 2. 天平文化 — 浄土信仰
 3. 国風文化 — 禅宗
 4. 弘仁・貞観文化 — 密教
- 問4 岩手県の平泉に現存し、奥州藤原氏によって建立された中尊寺金色堂に関する説明として、当時の時代背景や地理的状況を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 茨城県公立入試 類似）
1. 北方の交易拠点である十三湊などを通じた経済力を背景に、京都の文化を取り入れつつ独自の仏教文化を形成した。
 2. 足利義政が東山文化の代表として建立した慈照寺銀閣の影響を強く受け、東北地方における禅宗の普及に貢献した。
 3. 堺や博多の豪商と結びつくことで海外の最新技術を導入し、日本で初めて鉄砲を実戦で使用するための軍事拠点とした。
 4. アイヌの人々が信仰する独自の宗教施設として建立され、後に東北地方を支配した戦国大名の居城として改築された。
- 問5 平安時代、遣唐使の停止を経て日本の風土や生活に合わせた文化が発展しました。この時期に醍醐天皇の命によって編纂された、日本で最初の勅撰和歌集を何といいますか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 古今和歌集
 2. 万葉集
 3. 新古今和歌集
 4. 懐風藻
- 問6 9世紀初め、遣唐使とともに唐へ渡って仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めた僧侶は誰ですか。（2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 最澄
 2. 空海
 3. 行基
 4. 鑑真
- 問7 平安時代中期、遣唐使の停止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が発達しました。この文化において、宮廷生活での観察や自然の美しさを「をかし」という感性で描き、『枕草子』を著した人物は誰ですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
1. 清少納言
 2. 紫式部
 3. 鑑真
 4. 聖武天皇
- 問8 白河天皇が始めた政治の仕組みにおいて、天皇が位を譲った後に「上皇」として政治を行う体制を何と呼びますか。その名称と目的の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 和歌山公立入試 類似）
1. 院政 — 摂関家の影響力を抑え、天皇家の家長として自ら実権を握るため
 2. 摂関政治 — 天皇の外祖父として、幼い天皇に代わって政治を代行するため
 3. 公武合体 — 朝廷と幕府の結びつきを強め、国の政治を安定させるため
 4. 執権政治 — 将軍の補佐役として、鎌倉幕府の実権を独占するため
- 問9 「源氏物語絵巻」などの絵巻物には、当時の貴族の生活風景とともにその邸宅の様子が詳しく描かれています。これらの資料に見られる、平安時代の建築様式について述べた文として正しいものはどれか。（2014年 和歌山公立入試 類似）
1. 自然との調和を重視し、池や庭園を眺められるよう建物が廊下で結ばれた寝殿造が用いられた。
 2. 床の間や違い棚、畳を敷き詰めた部屋を特徴とする書院造が、貴族の日常生活の場となった。
 3. 仏教の影響を強く受け、左右対称の伽藍配置を持つ寺院のような居住空間が一般的であった。
 4. 防御機能を重視し、高い堀や堀で囲まれた質素で堅固な武家屋敷の構造を取り入れた。
- 問10 平安時代に藤原氏が権力を確立した「摂関政治」の仕組みについて、摂政という官職が果たした役割や背景を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2025年 高知公立入試 類似）
1. 天皇が幼少である期間に、天皇に代わって国政全般の裁定を下し、実質的な統治権を行使した。
 2. 成人した天皇の最高顧問として、天皇の決定に対して最終的な承認を与える権限を持った。
 3. 地方の武士団を統制するために、天皇から軍事指揮の全権を委託された。
 4. 仏教勢力の政治介入を防ぐため、宗教儀礼と政務を切り離して天皇を保護した。
- 問11 1086年から始まった院政の時期、上皇は自身の権力を支えるために、独自の軍事組織や政治基盤を整えました。これに関する当時の状況として正しい記述はどれか、次の中から選びなさい。（2023年 香川公立入試 類似）
1. 「北面の武士」と呼ばれる独自の軍事力を組織し、自らの身辺警護や寺社の強訴を防がせた
 2. 「執権」という役職を新たに設け、北条氏に政治の実務を代行させた
 3. 「班田收授法」を厳格に実施し、公地公民の原則に基づく律令国家の再建を目指した
 4. 「内閣」を組織し、国務大臣を選任することで近代的な議会政治の準備を進めた
- 問12 平安時代末期に武士として初めて太政大臣の位につき、現在の神戸市にあたる大輪田泊（おおわだのとまり）を修築して、海外との貿易を積極的に進めた人物は誰ですか。（2022年 佐賀公立入試 類似）
1. 源頼朝
 2. 平清盛
 3. 足利義満
 4. 北条時宗
- 問13 歴史学習のテーマとして「国風文化」を扱う際、その代表例として「古今和歌集」が挙げられます。この歌集が「勅撰和歌集（ちよくせんわかしゅう）」と呼ばれる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 三重公立入試 類似）
1. 天皇の命令によって、国家の事業として編纂されたため
 2. 中国から伝わった漢詩を、日本風の和歌に翻訳してまとめたため
 3. 各地の有力な貴族が、自分たちの優れた和歌を自費で出版したため
 4. 仏教の教えを広めるために、僧侶たちが和歌の形式を借りて記したため
- 問14 平安時代、大化の改新で功績のあった中臣鎌足の子孫として朝廷の要職を独占し、天皇の外戚（母方の親族）となることで長期間にわたって政治の実権を握った一族を選びなさい。（2018年 京都公立入試 類似）
1. 藤原氏
 2. 平氏
 3. 源氏
 4. 北条氏

答え合わせ・解説

問1	答え 1 平清盛	平清盛は、瀬戸内海の制海権を掌握し、現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に修築しました。これにより、中国の宋との間で日宋貿易を積極的に行い、輸入された宋銭や香料などの品々や、貿易から得られる莫大な富を背景に平氏の全盛期を築きました。足利義満は室町時代の人物で明との貿易を行い、菅原道真は遣唐使の廃止を建議した人物です。
問2	答え 1 空海	空海（弘法大師）は真言宗の開祖であり、紀伊半島の高野山を修行の場として選びました。一方、同時期に活躍した最澄は天台宗の開祖であり、近江国（滋賀県）の比叡山を拠点としています。栄西や道元は鎌倉時代に禅宗を広めた人物であり、時代背景が異なります。
問3	答え 1 国風文化 — 浄土信仰	遣唐使の廃止などをきっかけに、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が発達しました。平等院鳳凰堂はこの国風文化の代表的な建築物であり、その造営には、阿弥陀如来を信仰して極楽往生を願う浄土信仰が強く影響しています。天平文化は奈良時代、弘仁・貞観文化は平安時代初期の文化です。
問4	答え 1 北方の交易拠点である十三湊などを通じた経済力を背景に、京都の文化を取り入れつつ独自の仏教文化を形成した。	奥州藤原氏は、拠点である平泉を中心に、現在の岩手県から青森県にかけて強い影響力を持っていました。青森県の十三湊を通じたアイヌの人々との交易や、領内で産出される豊富な「金」による経済力を背景に、中尊寺金色堂に象徴される華やかな仏教文化を築きました。慈照寺銀閣は室町時代の文化であり、時代が異なります。また、堺や博多は西日本の商業拠点です。
問5	答え 1 古今和歌集	遣唐使が停止された後の平安時代には、日本の風土や日本人の感情に合った「国風文化」が発達しました。その流れの中で、紀貫之らが中心となって天皇の命令により編纂された、最初の勅撰和歌集（ちよくせんわかしゅう）が古今和歌集です。万葉集は奈良時代、新古今和歌集は鎌倉時代初期、懐風藻は奈良時代に成立した日本最古の漢詩集です。
問6	答え 1 最澄	平安時代初期、桓武天皇の支持を受けた最澄は、唐での修行を終えて帰国し、比叡山（滋賀県・京都府）を拠点に天台宗を日本に伝えました。同時期に活躍した空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めており、入試ではこの二人の活動場所と宗派の組み合わせが頻出となります。
問7	答え 1 清少納言	894年の遣唐使停止以降、それまでの中国文化の影響を日本の感性と融合させた「国風文化」が成立しました。清少納言はこの時期に一条天皇の中宮定子に仕え、鋭い観察眼と豊かな感性で随筆『枕草子』を執筆しました。選択肢にある鑑真や聖武天皇は、中国の文化や仏教の影響が強かった奈良時代の人物です。
問8	答え 1 院政 — 摂関家の影響力を抑え、天皇家の家長として自ら実権を握るため	白河天皇は、幼い皇子を天皇に据えつつ、自らは退位して自由な立場の上皇（院）となり、独自の役所を設けて政治を動かしました。これは、藤原氏が摂政や関白として政治に介入する余地を奪い、天皇の父や祖父が政治の主導権を取り戻すことを目的としていました。
問9	答え 1 自然との調和を重視し、池や庭園を眺められるよう建物が廊下で結ばれた寝殿造が用いられた。	「源氏物語絵巻」には、平安時代の貴族の住まいであった寝殿造の内部や庭園の様子が描かれています。寝殿造は、壁が少なく開放的な構造をしており、四季折々の自然を楽しむために池や庭園と一体化した空間作りがなされていました。一方で、畳や床の間が特徴の書院造は、後の室町時代以降に発達した様式です。
問10	答え 1 天皇が幼少である期間に、天皇に代わって国政全般の裁定を下し、実質的な統治権を行使した。	摂政は天皇が自ら政務を執ることができない場合に、その権限を全面的に代行する極めて重要なポストでした。藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）にし、生まれた子を早くに即位させることで、外祖父（母方の祖父）として摂政の地位に就きました。これにより、天皇が幼いうちから政治の決定権を握り、一族の繁栄を確固たるものにしました。
問11	答え 1 「北面の武士」と呼ばれる独自の軍事力を組織し、自らの身辺警護や寺社の強訴を防がせた	院政を行う上皇は、自らの権力を支えるために「院の近臣」と呼ばれる側近や、「北面の武士」という警護組織を配置しました。この北面の武士には、次第に平氏や源氏といった有力な武士が登用されるようになり、院政期における武士の社会進出を促すきっかけの一つとなりました。
問12	答え 2 平清盛	平清盛は瀬戸内海の制海権を掌握し、日宋貿易の拠点として大輪田泊を整備しました。これにより、平氏一門は莫大な経済力を蓄え、政治の実権を握る基盤としました。源頼朝は鎌倉幕府を開いた人物、足利義満は室町時代の金閣や日明貿易で知られ、北条時宗は元寇の際の執権です。
問13	答え 1 天皇の命令によって、国家の事業として編纂されたため	「勅撰」の「勅」は天皇の命令を意味します。古今和歌集は醍醐天皇の命により、紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠岑の4人が編纂者となってまとめられました。それまでの万葉集が私的な性格を持つのに対し、国家的な文化事業として位置づけられている点が大きな特徴です。
問14	答え 1 藤原氏	大化の改新で中大兄皇子（天智天皇）とともに活躍した中臣鎌足が、亡くなる直前に「藤原」の姓を賜ったことが一族の始まりです。平安時代に入ると、娘を天皇の后（きさき）にすることで、生まれた皇子を次の天皇に立て、自らは摂政や関白となって権力を独占する摂関政治を確立しました。